

入賞

「ヘルメットの大切さ」

岩出中学校 3年 松下 凜

私は、自転車に乗る時に絶対にやってはならないことがわかった。それは、ヘルメットをかぶらないことである。今の時代、ヘルメットをかぶらない人がとても増えてきている。その内の1人に私も入っている。

私は中学二年生の時に事故にあった。車と自転車の事故だ。その時、私はヘルメットをかぶらずに登校していた。事故にあい、私は側頭部を骨折した。幸い、脳や体には異常がなかったが、頭という人間にとって大事な部分をけがしてしまった。今、私はとても後悔している。あの時、ヘルメットをかぶっていたら軽いけがですんだのに、なぜ私はヘルメットをかぶらなかったのだろう。と、事故から2カ月経った今もそう思っている。側頭部を骨折し、私は緊急手術となった。すごく大きな手術だったらしい。私は、医療ドラマにすごくハマっていて自分が経験したような手術を再現しているドラマがあったので見てみることにした。私は言葉を失ってしまった。なんと、その手術は「頭をあける」ということをしていたからだ。私は骨折により「硬膜外血腫」という脳が大出血で圧迫されるというものになった。そのため、手術前は激しい頭痛や吐き気におそわれた。「このまま私は死んでしまうんじゃないか。」と、思うくらいの激しい痛みだった。痛みがおさまったところで、私は医師から「今から手術をする」ということを聞かされた。家族一同パニックになってしまった。でも、これで手術をするのが少しでも遅れていたら、私は助かっていなかったのかもしれない。パニックになりつつも、私は手術室に向かっていった。3時間という大手術となった。無事手術は成功した。それを聞いて家族はほっとしたそう。当たり前なことだが、家族は本当に自分のことを心配してくれていたと思う。手術後、自分も家族の顔を見てほっとした。本当に家族がいてくれてよかったと思う。自分を救ってくれた人達が自分の命の恩人となった。学校の先生方も病院に来てくれていたそう。これを聞いて私はびっくりした。まさか来るとは思ってもいなかったことだったからだ。その後、私は一週間という早さで退院した。これにはさすが

に自分も驚きが隠せなかったが、半面嬉しい気持ちでもあった。クラスみんなに会えるからだ。クラスみんなもとても心配してくれたそうで、より一層大好きになった。

これらの経験から、「ヘルメットの大切さ」というものがわかった。今までの私なら、ヘルメットださいし、重たいなどの言い訳をしてかぶらなかった。だが、かぶらないとこんなに大きなけがをしてしまうことに気がつけた。今は車で登下校をしているが、ヘルメットをかぶっていない人を見かけることがたくさんある。かぶっていない人の気持ちもわかるが、ヘルメットは本当にしておいたほうがいいと私は思っている。ただ、私の中学校のヘルメットは、とても重たいためあまりかぶりたくはない。そのため指定のヘルメットではなく、個人のヘルメットをかぶるというルールに変えるとかぶる人は少しでも増えると思う。だから、検討してみしてほしい。みんながかぶりたくなるようなヘルメットをつくってほしい。でないと、自分のように大きな事故につながってしまう。そうならないためにも、ヘルメットをかぶることは大事だ。みんなも、ヘルメットをかぶることを意識して、日常生活を過ごしていくことを心がけていこう。